

人生ハンド仏句

第74号

H. 20. 5. 1
(毎月1日発行)

四十六億年の命

住職 谷川寛俊

私達の地球の事を知っていますか？

銀河系の中心を約二億年の周期で回っている太陽系の第三惑星だそうです。

この第三惑星は四十六億年前に誕生し、それから十億年かけて海が出来ました。その時代(原始時代)の空気は、九十八パーセントが炭酸ガス。単細胞生物は三十二億年もの間、海の中で炭酸ガスを酸素に変える仕事を繰り返し、地球に十分な酸素が満たされたのは約四億年前と言われています。

その頃、緑の生命体(コケ類・シダ類)が地上に生まれ、魚類・両生類・爬虫類・恐竜・哺乳類・人類の祖先・・・と進化を繰り返し、約三百万年前ようやく人類が誕生しました。

その間、地球の大異変に絶え、

氷河期に耐えずつと子孫を残し、次代に命を伝え、途中一度も途切れる事無く続いてきた命が「わたし」なのです。途中のどこかが欠けていても今の「わたし」は存在しません。言わば、私の命は四十六億年の過去を背負った命です。

ある日の事、お釈迦様は弟子の阿難(あなん)を連れて、ガンジス川の岸辺を歩いておられました。すると阿難が質問しました。

「お釈迦様、命とはどれほど尊いものなのでしょうか？」

「阿難よ、足元の砂の一粒をとってごらん」

阿難は足元にある砂の一粒をつまみ、お釈迦様に差し出すと、お釈迦様は、その砂を手のひらにのせ、再びガンジス川の岸辺に返されました。

「阿難よ、今私が返した砂をひろってごらん」

「お釈迦さま、それは出来ません。このガンジス川の岸辺には無数の砂があります。その中で今、お釈迦様が捨てられた砂をひろうことは無理な話です」

「その通り、同じ一粒の砂をひろう事は、難しいことです。つまり私が

編集・発行
玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX (0765)22-2268

メールアドレス

kokorochanthk@ybb.ne.jp

ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/>

今捨てた砂の一粒と阿難が質問した命というものは同じくらい大切に貴重なものなのです。」とガンジス川の砂を指されて阿難に命の尊さを教えられました。

この命の尊さに気が付く時、自分の周りにある全ての命も四十六億年の過去を背負った命である事に気が付くでしょう。

お墓を掃除することは自分の心を掃除することです。お墓に手を合わせるという事は自分の命に手を合わせる事です。お墓の前で手を合わせるその姿の中に、今ここに尊い命があることの難しさを感じることでしよう。

先祖供養の心とは、亡き人を忘れない追慕の心と同時に、命を伝えてこられた方々の思いに感謝し、この命の尊さに気付く心なのです。

今月は、その御先祖様を追慕供養する大事な永代祠堂法要が勤修されます。どうぞご先祖に思いを寄せて下さい。ご先祖様は必ずあなたのその思いにどんなにか安心されることでしょう。

「一人の私」は無数のご先祖様の命のつらなり